

セッション2 質疑応答

二宮皓（放送大学広島学習センター）

3つの異なるシナリオについてお聞きしました。質疑応答に入る前に、いくつかコメントさせてください。まず、シルビア・シュメルケス博士が報告されたメキシコのシナリオですが、私たちが「教育の個性化」のシナリオと呼んでいるものと思います。彼女のケースでは、明日の学校教育は「個性化した学習」に分類できるでしょう。マレーシアのアブドゥル・ラシッド・モハメッド博士は、社会の変化に対応することの重要性を教えてくださいました。博士の指摘は、社会の変遷を経験してきた日本人にも非常に身近なことです。教育もこのような変化に対応できなければなりませんし、将来起きる様々な変化に対しても、教育は対応できなければなりません。マレーシアでは、改革あるいは変革の是非に関して議論されており、このようにして未来のシナリオが描かれていることがわかりました。アフリカ諸国では状況が異なるかもしれませんが、ピエール・コウラゴ博士は母国ブルキナファソにおけるポスト2015年の課題について概要を説明されました。発表者の皆様に感謝いたします。会場の皆様から、明日の学校教育に関してそれぞれのシナリオやビジョンをお聞きしたいと思いますが、その前に少しだけ時間をいただき、キャロル・ムッチ博士に2つ質問をさせてください。まず、今お聞きした3つのシナリオについて、どのような印象を持たれましたか。また最後のシナリオについて、第1象限から第4象限に一気に飛躍できると思いますか。

キャロル・ムッチ（ニュージーランド政府）

第1象限から第4象限に飛躍できるかという2番目のご質問ですが、断片化の状態から、独自でカリキュラムを作れる状態に一気に移行したいと思う場合、①インフラが整備されているか、②リーダーシップはあるか、③教員がインクルーシブ教育について幅広い可能性から必要な決定ができるよう訓練を受けているかという点について考察しなければなりません。教員が集中的な教員養成プログラムや研修プログラムを受けていなければ、アイデンティティを形成するプロセスを経ず、共通の目標に対する国のコミットメントもない状態で、どのように教員は第1象限から第4象限まで飛躍できるのでしょうか。リスクが大きすぎます。いくつかの国々に対しては、急がないように言わねばなりません。教員養成や研修が不十分で、教員がこのモデルの能力がない状況では、段階を追って移行すべきであり、一気に飛躍するべきではありません。

二宮皓（放送大学広島学習センター）

参加者の皆様にご意見を伺いたいと思います。質問ではなく、皆様のビジョンをお聞かせ下さい。この点に関する批判ではなく、特に開発途上国にとって明日の学校教育はどのようなものになると思われますか。3つのシナリオがあれば、ここに参加されている政策立案者やJICAの皆様は、教育政策を立案するプロセスに対する投入を計画する上で、様々な選択ができます。例えばモハメッド博士のシナリオにある、学習スペースや校舎の設計などです。2015年や2020年に向けて異なったシナリオを選択すれば、どうなるのでしょうか。どのようなシナリオでも結構ですので、皆さん自身のシナリオを自由にお話し下さい。

質問1

トマス・ヘンリー・メグラソン（千葉県）

私は国際交流員の仕事をしています。開発途上国だけでなくアメリカや日本にとってのシナリオでもあるかもしれませんが、アメリカや日本では親の関わり方が問題となっています。私が言いたいのは、特に親の期待についてです。ほとんどすべてのことに対して、教員の責任とは何か、親の責任とは何か、人によって

期待が異なります。どのような道徳を教員は教えるべきとされているのでしょうか。何が学校がやるべきことで、何が家庭がやるべきことでしょうか。政策の傾向ではありませんが、新しい傾向として、ますます多くの親が子どものことを学校に任せっきりにしています。我が子のことは学校の問題という態度です。また日本にはモンスターペアレントがいます。彼らは子どもにやかましく言い、子どもの成績が悪いと、教師が悪いと言って学校に圧力をかけます。これは親も参加して地域の人々全員が子どもの教育に等しく責任を担うような地域社会を作ることによって解決しなければならないように思います。

パネリストの回答

二宮皓（放送大学広島学習センター）

非常によいシナリオをありがとうございました。家庭と学校の関係、そして家庭や学校と地域との関係は非常に重要です。親が自分の考えを表明し、親がますます関わるようなシナリオがあるとすれば、政策の指導者たちはそれぞれがもつ未来のシナリオを土台にしつつも、この傾向に留意しなければなりません。

キャロル・ムッチ（ニュージーランド政府）

これについて私もコメントしてよいでしょうか。ニュージーランドでも同じ問題がありました。すべての権利は責任が伴います。ニュージーランドでは権限の移譲が行われると共に、現在、各学校に保護者の理事会ができています。外部評価団体の報告書は理事会に提出されます。教職員と保護者の理事会が共同で意思決定の責任を担い、リソースに関しても実に多くの決定を行います。

アブドゥル・ラシド・モハメッド（サインスマレイシア大学）

非常によいご意見をいただいたと思います。マレーシアの場合、生徒が公的な試験で優秀な成績を取れば、生徒が優秀だとされ、生徒が試験に落ちれば、教師が悪いとされます。生徒の学業成績は通常、公的試験の成績に基づいて測られます。学校教育は試験を中心に回っています。生徒は試験対策を教え込まれます。大学入学も就職も、主に試験の成績によって決まります。知性を評価するべきですが、私たちは記憶力だけが知性ではないことを忘れがちです。知性は多面的です。しかし試験のほとんどは記憶力、すなわち授業で教えられたことや復唱したことをどれほど思い出せるかを測るものです。有能さ、才能、能力、適性、技能、技術、経験なども評価するべきです。その方が生徒の実力を正確に反映した、明らかによい測定方法です。どうすればこれを正確に評価できるかを考えなければなりません。

質問2

高橋謙吾（大学生）

私は心理学専攻の学生です。シナリオかどうかわかりませんが、先ほど、教育は時代とともにどのように変わりうるかという問いかけがありました。しかし私は、教育は、時代によって変化する部分と、変化してはいけない部分があると思います。どのような時代でも状況を把握し、人の意見を聞き、統計をモニターしなければならぬのは分かります。しかし、どう言ってもいいかわかりませんが、どのような時代であろうと、一貫した確固たる柱があるべきだと思います。そのような柱があってこそ、質の高い教育が実現できます。教育において、時代が変わっても変化しない部分というのはどのようなものだとお考えになりますか。

モデレーターの回答

二宮皓（放送大学広島学習センター）

OECDの「明日の学校教育」にはいくつかのシナリオがあります。あなたがおっしゃったのは「現状維持」のシナリオと言えるかもしれません。教授法や学習法の制度は今のまま変わらないかもしれません。このフォーラムは報告書が出ますので、皆様のシナリオは世界の方々に読まれることを申し添えます。もう少し会場の皆様のご意見をお聞きしたいと思います。

質問3

加藤優子（上智大学）

私は上智大学教育学科1年生です。発表をお聞きし、自分自身のシナリオについて考えさせられました。教員に焦点を当てるシナリオです。なぜ教員が重要なのでしょうか。それは、子どもたちの成長を支える大人は、家庭では親ですが、家庭の外においては、教員しかいません。ですから教員は単に教える専門家であるだけでなく、子どもの成長を大切に作る人でなければなりません。そのような優秀な教員を育成するためには、教員が子どもたち一人ひとりを見て最善の指導ができるように訓練する教員養成が必要だと思います。

モデレーターの回答

二宮皓（放送大学広島学習センター）

教員に教えておられる方はおられませんか。会場のどなたか、お答えいただけませんか。

プラサード・セートンガ（パラデニヤ大学）

これは本当のコメントです。私も教員養成について、子どもの発達にどのような教員が必要なのか常々考えています。今話に出ているのは、子ども中心の教育のことですね。あなたが言われたことは非常に複雑で、子どものことだけを考えればいいわけではありません。教科内容も、教員養成で教えているその他のスキルも考えなければなりません。そのために私は、教員養成では、どのようにすれば自らを振り返って次に生かせる「内省的な教員（reflective teacher）」になれるかを問う政策提言書を出しました。私たちはスリランカの4つの大学のすべてから教員を集めて10週間の教育実践演習を3回実施しました。演習ではトップダウン式ではなく、教員が中心となってベストプラクティスを開発するようにしました。学校では、先輩の教員がメンター（指導者）として課外活動をシェアしました。このようなメンター方法によって、教員養成の開発に取り組んでいます。非常に難しいですが、このような教員を表すのに「内省的な教員」という言い方をしています。

二宮皓（放送大学広島学習センター）

彼女の提案は実際、未来の教員の役割をどのように定義するか、学校制度の中で教員がどのような責任を与えられるべきかに関わるものです。残り5分ほどありますので、もう少しご意見をお聞きしたいと思います。

質問4

長尾真文（国際基督教大学）

二宮先生とパネリストの皆様、このフォーラムのテーマ「自立的教育開発に向けた国際協力」についてお聞きします。このテーマは今まで7年間、ずっと変わっていません。その基本的な前提は、教育開発は何

よりもまず、国家政策という観点から国家の枠組みで考えるべきというものです。しかし特別講演や基調講演をお聞きして、先進国も含めて多くの国々で、国の教育制度では適切に対応できなくなるという一抹の不安があります。今年広島の中高等教育で実施された学校評価では、他所の安定したシナリオには当てはまらない問題が非常に多くありました。ムッチ博士が示された枠組みも、国家単位によるものです。教育やその他の社会活動における格差の現状に光を当てる国家間の協力や、国の異なる地方間の協力や、複数の国々の制度間協力についてご意見をお聞かせいただければと思います。

パネリストの回答

キャロル・ムッチ（ニュージーランド政府）

国々の政治制度は国に焦点をあてたものであり、私たちが取り組める規模の単位を提供していると思います。国家単位を超えた教育活動をするには時機尚早と思います。もっと安定するまで待たねばなりません。少数民族の言語を支援し、国家制度を運用することで少数民族が消滅しないようにしなければなりません。あまりにも急速にグローバル化が進むと、声が届かなくなり消えてしまう少数民族も出てくるでしょう。ですから当面は国家単位で取り組む必要があると思います。長期的には、ご指摘の通り、異なる制度間の協力をより推進する方向に向かうでしょう。さらに付け足すなら、協力は外向きのプロセスだけでなく、学校内、国内、地域内など内向きのプロセスでもあります。その点で国際協力が大きな役割を果たします。「万人のための教育」と言えるとすれば、それは私たち全員が人生において等しく機会を与えられることを保障することです。

シルビア・シュメルケス（イベロアメリカ大学教育開発研究所）

世界は均一ではなく、様々な要素でできています。教育は、フェイ・キング・チャン博士が今朝おっしゃっていたことを構築しなければなりません。どのような開発がアフリカ諸国で必要かを問う必要があります。メキシコで必要なことは異なるかもしれないと認識しなければなりません。それでも開発目標を守ることは必要です。国によって状況が非常に異なっており、開発への道も様々です。教育を開発に合わせるにはどうすればよいか。将来を考察する際、ニーズに対応できるように、農業開発、教育開発、社会開発などの分野間の連携を促進する政策が必要だと思います。様々な要素がある世界でこそ、これらが豊かに実ると思います。

二宮皓（放送大学広島学習センター）

ありがとうございました。これにてセッション2を終了いたします。